

発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

県民の日・文化財イベント

埼玉県民の日である11月14日（日）、文化財イベントを市内各地で開催しました。

江南文化財センターにおいては、「まが玉づくり・火おこし体験」を開催し、小学生の児童を中心に約40名が参加しました。真剣なまなざしで、世界で一つだけのまが玉を作り上げていました。

星溪園（鎌倉町）においては、埼玉県立熊谷女子高等学校・埼玉県立熊谷西高等学校・立正大学の茶道部にご協力いただき、お茶に親しむ会を開催しました。今年は大天候にも恵まれ、合計137人もの参加者が来園し、日本の伝統文化である「一期一会」のお茶を楽しんでいました。

国登録有形文化財の坂田医院旧診療所（妻沼）においては、「近代化遺産全国一斉公開2010」の一環として、内部の一般公開を開催し、県外からも含め約60名が来場しました。映画の撮影で使用されることの多い、旧診療所のレトロな雰囲気を楽しむながら、写真撮影をするなど、多くの方がじっくりと建物と向き合う様子がありました。



お茶に親しむ会

第3回地域伝統芸能今昔物語

11月23日（火・祝）、「第3回地域伝統芸能今昔物語」が大里生涯学習センター「あすねっと」



間々田万作おどり

文化ホールで開催され、市内各地に保存継承されてきた市指定無形民俗文化財5団体（熊谷木遣、下恩田ささら獅子舞、手鳥八木節笠踊り、間々田万作おどり、成沢屋台囃子）と、一般芸能5団体（熊谷市三曲協会、沖縄舞踊愛好会、大里音頭の会、妻沼八木節保存会、むさし江南音頭保存会）が共演し、日々修練を重ねている伝統芸能を披露しました。あわせて無形民俗文化財のパネル展示も行いました。また、無形民俗文化財の披露では、未来の継承者となる小学生が多く出演し、舞台を盛り上げました。

市政宅配講座—伝統芸能の世界「今昔物語」

11月21日（日）、市政宅配講座・伝統芸能の世界「今昔物語」を、箱田児童高齢者ふれあいセンターにて開催しました。箱田地区の市民を中心に構成されている「はこだ友の会」からの依頼を受け、市内の無形民俗文化財について学ぶ機会を提供しました。この講座では、平成21年に開催した「第2回地域伝統芸能今昔物語」の様子を収録した動画を放映しながら、市内における伝統芸能の分布や、獅子舞の種類などを中心に説明しました。この講座では、伝統芸能の楽しさや素晴らしさを皆さんのところへお届けしますので、ぜひご活用ください。



市内遺跡発掘情報

前中西遺跡「古墳時代の河川の跡を確認」

7月～10月半ばまで発掘調査を行いました。衣川の旧流路と考えられる河川の跡や直線に並ぶ杭、溝跡などが見つかりました。河川跡からは大量の土器とともに、農具とみられる木製品を検出しています。今回は、鋤（すき）、多叉鋤（たまたすき）、田下駄（たげた）、横樋（よこつち）などが見つかり、いずれも腐らずに残った貴重なものです。溝跡は用水路として機能し、集落の生産基盤である農地を支える役割があったと考えられます。これらは古墳時代後期（6～7世紀）頃のものだと推測しています。



木製品の出土した様子

9月29・30日に地元小学校を対象に遺跡見学会を行いました。この他、職場体験、実習の受入なども実施し、259人の参加がありました。また、政府間の「パーミヤーン遺跡保存事業」の一環として日本で研修を受けているアフガニスタン人考古学者も遺跡を訪れ、識見を深めていました。

9月29・30日に地元小学校を対象に遺跡見学会を行いました。この他、職場体験、実習の受入なども実施し、259人の参加がありました。また、政府間の「パーミヤーン遺跡保存事業」の一環として日本で研修を受けているアフガニスタン人考古学者も遺跡を訪れ、識見を深めていました。

上之地区に弥生時代の竪穴住居出現！

11月13日（土）、上之地区において古代体験イベント「弥生時代ヘタイムスリップ」を開催しました。イベントでは、上之地区に広がる前中西遺跡で実際に見つかった住居跡をもとに復元した弥生時代の竪穴住居や出土した弥生土器や石器などを一般公開し、まが玉づくりや火おこしなどの体験も行いました。

このイベントは主に上之地区在住の市民を対象に行ったもので、407名もの参加があり、会場にはぎわいを見せていました。



竪穴住居の見学

連載 埋蔵文化財の保護活動

第5章 発掘調査報告書の作成について



発掘調査報告書とは、埋蔵文化財の発掘作業から整理等作業にいたる、発掘調査全般の成果を的確にまとめたものです。発掘調査は、この報告書が適切に刊行されることによって完結します。

通常、発掘調査は、埋蔵文化財のうち、開発等で破壊され現状保存の措置をとることができなかった遺跡を、後世に残すことが目的の記録保存です。したがって、報告書は、破壊される遺跡の代わりに、後世に残す記録の中で最も中心となるもので、埋蔵文化財の内容を過不足なく記載したものが求められます。

また、発掘作業から整理等作業を通じて得られた情報を、客観的かつ的確に収録したものであると同時に、理解しやすいものでなければなりません。

熊谷市教育委員会は、毎年、発掘作業を実施した遺跡の報告書を刊行して、多くの方々に、その成果を公表しています。刊行した報告書は、市内・県内をはじめとした図書館や博物館等に配布しています。江南文化財センターおよびホームページ「熊谷市の文化財」でも閲覧することができますので、興味のある方は、熊谷市の歴史を知る一つの手立てとして、ぜひご利用ください。

文化財センター通信

名園で俳句を一俳句入門講座



の丁寧なご指導のもと、21名の参加者たちは夏から秋へと変わりゆく星溪園の中で俳句の創作に勤んでいました。

名勝星溪園の星溪寮において、9月16日から、10月7日、14日、28日、11月4日の計5回に渡り、俳句入門講座が開催されました。

この講座は、日本の伝統文化である俳句を通して、市の名勝である星溪園をもっと多くの方に知っていただきたいという趣旨で始まり、今年で4年目となります。

講座の開催にあたりましては、創立40年有余年の歴史を持つ、熊谷市俳句連盟の皆さんにご協力をいただき、会長であります伊佐山春愁先生に講師をお願いいたしました。伊佐山先生

龍淵寺における傍示標の設置

11月上旬、上之にある龍淵寺に、指定文化財を案内する傍示標を設置しました。龍淵寺は、鎌倉時代から安土桃山時代にかけて忍城を中心に勢力を広めた成田氏の菩提寺として、県内有数の古刹であり、複数の文化財を所有しています。今回設置した傍示標には、「奥原晴湖の墓」（県指定文化財：旧跡）、「成田氏の墓」（市指定文化財：史跡）、「梵鐘」（市指定文化財：歴史資料）についての説明を記しました。なお、梵鐘は新たに建てられたお堂に設置されており、その景観は目を見張るものがあります。設置した傍示標とあわせて、ぜひご覧ください。



文化財探訪 根岸家長屋門③—修理工事の完了

平成22年4月から修理事業を行っていた市指定文化財建造物の「根岸家長屋門」は、11月に工事を完了し、12月に竣工式を迎えました。

今回行った修理の主たる目的は、歪みわたんだ屋根を修復し雨漏りを防止することでした。実際の作業はすべての屋根瓦を取り去り、腐朽した隅木・棟木・垂木等を交換した上で、割れた瓦を交換するなどして葺き直しをしました。屋根瓦は約12,000枚に達し、通常住宅の二倍もある分量でした。

また、当初の長屋門の姿に近づけるため、後世に増築された下屋などを取り払う工事も行いました。

その過程で、かつての長屋門の壁が今まで知られていた白壁ではなく灰色を呈した「ねすみ壁」であることが判明し、前面の塗り直しも実施しました。

整然と並んだ瓦の葺き筋や、整った軒の先端を見上げると、重厚な色調の壁とあいまって、幕末の志士が通り抜けた時代を思い起こさせます。

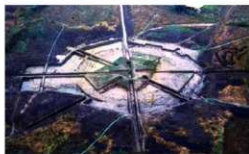
なお、根岸家では門内に小展示室（友山・武香ミュージアム）を新たに設け、来場者への情報発信の場として活用されることになりました。



修理工事完了後の長屋門

文化財コラム 古代との遭遇・第5話 地下に埋もれた前方後円墳—鑑塚古墳—

よろいづか



「カーン、カーン」市内上中条にある鑑塚古墳の発掘調査開始の杭打ちが始まりました。発掘調査は、まっすぐなトレンチ（土の埋まり方や遺構の概要を知るための試掘溝）を入れるために決まった方位と距離を保って杭を打つことから始まります。「ここに打とう」と決めた最初の杭が、これ以上ない、実に奇跡に近い都合の良い位置で、この発掘の成果を大きなものにする原因となるとは、この時、夢にも思っていませんでした。

当地は、地上から見て古墳があるなんて想像もつかない、一面真平な水田地帯の中だったので。しかし、杭は水田下に埋もれていた鑑塚古墳の後円部のど真ん中に打ち込まれたのです。先ずこの杭を中心に東西南北十字にトレンチを入れたところ、なんと北・東・南同じ距離で古墳の縁辺部に通輪列がほぼ 20 cm 間隔で出てきました。径 31.8m の円墳であることが分かったのですが、西側が出てきません。「おかしいなあー」と思いさらに西へ進めると、円の外 12m で直線となる墳丘の終わりが見つかったのです。「すごい、前方後円墳だよー」なんと、当地では初めての発見となる「帆立貝式前方後円墳」があらわれたのです。昭和54年夏8月のことです。（寺社下、記）

特集 西別府遺跡群—郡家とそれを支えた祈りと祭り—

西別府遺跡群は、熊谷市の西部、深谷市境に所在する西別府遺跡、西別府廃寺、西別府祭祀遺跡の3遺跡の総称で、古代幡羅郡家（郡役所）跡である深谷市幡羅遺跡とともに重要な遺跡です。

西別府遺跡は幡羅郡家の一部と考えられ、調査により平安時代（9世紀後半～11世紀後半）の大型掘立柱建物を伴う二重溝区画が発見され、郡家を構成する重要なブロックとの評価を得ています。

西別府廃寺は、奈良時代（8世紀前半）に創建された寺院で、建立には幡羅郡家の役人が関わり、経済的・精神的な支えとなっていたと推定されます。西別府祭祀遺跡（右上、現況写真）は、幡羅郡家ができる少し前の古墳時代後期（7世紀後半）から始められた水の恵に対して行ったお祭りの場所で、郡家に付属する祭祀場所として機能し、西別府廃寺の僧侶も関わり祈りを捧げていたと考えられます。

郡家・寺院・祭祀の3つが揃って発見されている例は全国的にも珍しく、岐阜県弥勒寺官衙遺跡群に次いで2例目で、現在国指定史跡をめざして、調査・研究を行っています。



編集後記

平成22年は、文化財保護法制定60周年という記念すべき年でありました。昭和24年に発生した法隆寺金堂壁画の焼損という出来事が発端となり、翌年制定された法律は、有形と無形の文化財を幅広く類型化するなど、世界的に見ても画期的な内容を含んでいました。この法律もその後の課題と向き合いながら進化を続けています。なお、本年9月、ポーランドで開催されたASEM（アジア欧州会合）では、「文化財と地球温暖化」という新たな課題についての議論が交わされました。これはまさに、夏の猛暑地である熊谷にとっても重要なテーマです。



発行：平成22年12月20日

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

ホームページ：文化財の紹介、埋蔵文化財の取扱方法、「BUNKAZAI 情報」カラー版などを豊富に掲載

「熊谷市の文化財」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/>

「熊谷市 web 博物館」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>